

小児アレルギー・リウマチ研修カリキュラム

専門医資格取得の要件

I アレルギー専門医（日本アレルギー学会「専門医制度規程」より抜粋）

専門医として認定を受けるためには、次の各号の全てを満たさなければならない。

- (1) 日本国の医師免許を持つ医師であること
- (2) 認定時に引き続き 5 年以上本学会の会員であること
- (3) 内科、小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科など基本領域の学会（以下、「基盤学会」という。）の専門医（認定医）資格の認定を受けていること
- (4) 基本領域の臨床研修を含め通算 6 年以上の臨床研修歴を要する。この研修歴 6 年の内、臨床研修期間は実質的な研修期間とし、留学、出産、育児休暇、長期療養期間は含めない。通算 3 年以上は本学会認定アレルギー専門医教育研修施設等において、本学会認定指導医又は専門医のもとでの、別に定めるアレルギー専門医カリキュラムに従ったアレルギー学の臨床研修を要する。ただし、施設の専門、地域等の格差により施設での研修が困難な場合は、第 32 条の研修方法により所定の臨床研修を受ける。
- (5) 最近の 5 年間に自ら診療しているアレルギー疾患患者 40 名分の診療実績書の提出
- (6) 前項提出患者の内 2 例についての症例報告書の提出
- (7) 最近の 5 年間（5 年前の 8 月 1 日から申請時まで）に別表 1 に示すアレルギー学の業績が 50 単位以上あること。ただし、下記 1）、2）の出席を必須とする。
 - 1) 本学会 2015 年以降開催の学術大会 2 回以上
 - 2) 本学会 2014 年以降開催の総合アレルギー講習会 1 回以上
- (8) 専門医資格認定試験に合格していること

II リウマチ専門医（日本リウマチ学会「専門医制度規則」より抜粋）

専門医認定試験の受験資格は、次の各号の条件を満たし、別に定めるリウマチ専門医研修記録（以下「研修記録」という）を専門医資格認定委員会が審査し、受験資格を認めた者とする。

- (1) 日本国の医師免許証を有し、医師として人格及び見識を備えていること
- (2) 申請時において引き続き 3 年以上学会の会員であること
- (3) 第 2 条第 4 項によって認定された教育施設において、別に定める専門医研修カリキュラム（以下「研修カリキュラム」という）に従い通算 3 年以上のリウマチ学の臨床研修を行ったこと（臨床研修実績を研修記録に記載のこと）
- (4) 日本リウマチ学会専門医資格維持施行細則による単位 30 単位以上を取得していること（取得単位を研修記録に記載のこと）
- (5) 日本専門医制評価・認定機構が認定している基本領域学会の認定医或いは専門医の資格を有すること

研修カリキュラム

I アレルギー専門医・研修カリキュラム（日本アレルギー学会指定）

<https://www.jsaweb.jp/uploads/files/20250321karikyuramu.pdf>

II リウマチ専門医・研修カリキュラム（日本リウマチ学会指定：会員限定公開）

https://www.ryumachi-jp.com/pdf/4_curriculum_2205.pdf

指導医（認定指導医と当該専門医）

I 日本アレルギー学会認定指導医・専門医 富板美奈子

II 日本リウマチ学会認定指導医・専門医 富板美奈子

教育実績

- ・アレルギー専門医取得 6 名、リウマチ専門医取得 3 名
- ・日本小児リウマチ学会専門研修（旧制度）受け入れ 1 名

教育施設の特徴

アレルギー研修：千葉県内で数少ないアレルギー専門医が複数在籍する施設として、県内からアレルギー疾患の患者が多く紹介されてきます。現在は、食物アレルギーの紹介が多く、必要な症例には積極的に負荷試験を行い、少量導入から食事指導を行っています。千葉大学医学部附属病院、国立病院機構下志津病院と連携して、臨床研究や患者会のサポートを行っています。県内の基幹病院との診療ネットワークにも参加しています。喘息やアトピー性皮膚炎の難治例には最新の生物学的製剤や分子標的薬を使用した治療を行っています。

リウマチ・膠原病研修：当院は県内唯一の小児専門の整形外科があるため、関節炎・関節症状を有する患者が多数紹介されてきます。全身症状が少ないため小児科を受診しない少関節型の若年性特発性関節炎の患者数は、全国の小児リウマチ専門施設の中でも 1,2 を争います。シェーグレン病、全身性エリテマトーデス、若年性皮膚筋炎など膠原病の患者も多く診療しており、他科との連携をとりながら、生物学的製剤も含め、現在の日本で可能な最新の治療を行っています。

先天性免疫異常症(Inborn Errors of Immunity: IEI)：自己炎症疾患や原発性免疫不全症など、免疫に関わる遺伝子の異常によって起こる疾患を総称してIEIといいます。免疫不全症は適切な診断と早期介入が必要となりますので、積極的に検査を行い、全国の専門医と連携しながら診断・管理を進めています。

IEIはもちろん、アレルギー疾患もリウマチ膠原病も「免疫の異常」という観点から、病態を考えながらの診療をしています。隔週の千葉大学小児病態学免疫グループの研究ミーティングに参加して、臨床にも基礎にも通じる scientific な考え方を身につけられるようにします。免疫は体内で起こる様々な現象に関わっています。当科で専門的な考え方と診療技術を身につけましょう。